

II. 神奈川県外の海成、湖成、イベント記録堆積物

(2) コンボリユート葉理構造を含む千倉層群畑層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 7

標本名 コンボリユート葉理構造を含む千倉層群畑層

露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 4 m, 高さ 2.6 m

重量 20.4 kg

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状、短辺を軸として巻いて大型移動棚に収蔵

採集地 千葉県館山市畑

緯度・経度 N34°56'45", E139°54'25"

標高 92 m

露頭の種別と現状 林道沿いの人工露頭、消失(被覆)

露頭面の向き、傾斜 N22W, 42W (工事法面)

走向・傾斜 N55E, 20N

堆積物の種別 凝灰質砂岩・泥質砂岩層(海成層)

年代 後期鮮新世～前期更新世(1.95～0.85 Ma)(石浜・田口, 2008)(千倉層群畑層上部、川上・穴倉, 2006)

採集作業者 森山哲和(考古造形研究所)

採集立会者 石浜佐栄子、田口公則

採集日 2007年10月24日

その他(火山灰層との関連) 川上・穴倉(2006)による地質図上で、鍵層NYよりも上位、鍵層MSの周辺

関連文献等

石浜佐栄子・田口公則(2008)千葉県館山市に分布する千倉層群畑層のコンボリユート葉理構造を含む地層剥ぎ取り標本について. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (37): 17-22.

川上俊介・穴倉正展(2006)館山地域の地質, 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 82pp. 産業技術総合研究所地質調査総合センター, つくば.

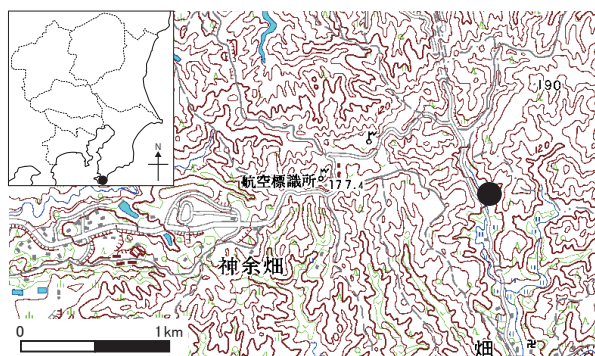


図 II-2-1. 採集地点(国土地理院発行の数値地図 50,000(地図画像)「茨城・千葉」を使用)。

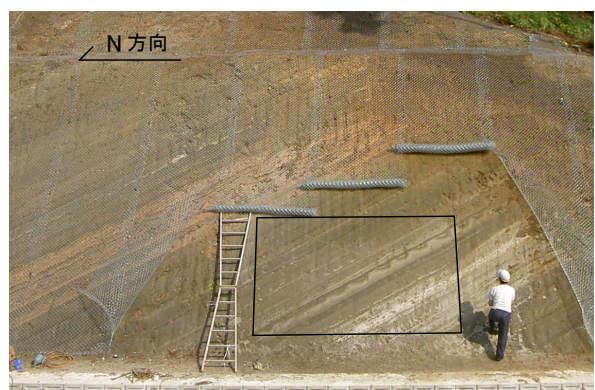


図 II-2-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。黒枠が標本の範囲。

解説 コンボリユート葉理構造が発達する層が、標本左上から右下へ、ほぼ対角線上に伸びる。標本(法面)上での波長 45 cm、波高 10 cm。未固結堆積物からの急激な脱水に伴う流体移動の痕跡として、初生的な葉理が上方に曲げられて形成されたと推定される。荷重痕や滑り面などの変形構造、平行葉理やリップル葉理などの堆積構造、生物擾乱やツノガイ化石なども観察できる。見かけの層厚 4 m、真の層厚約 2.6 m。

記録者 石浜佐栄子

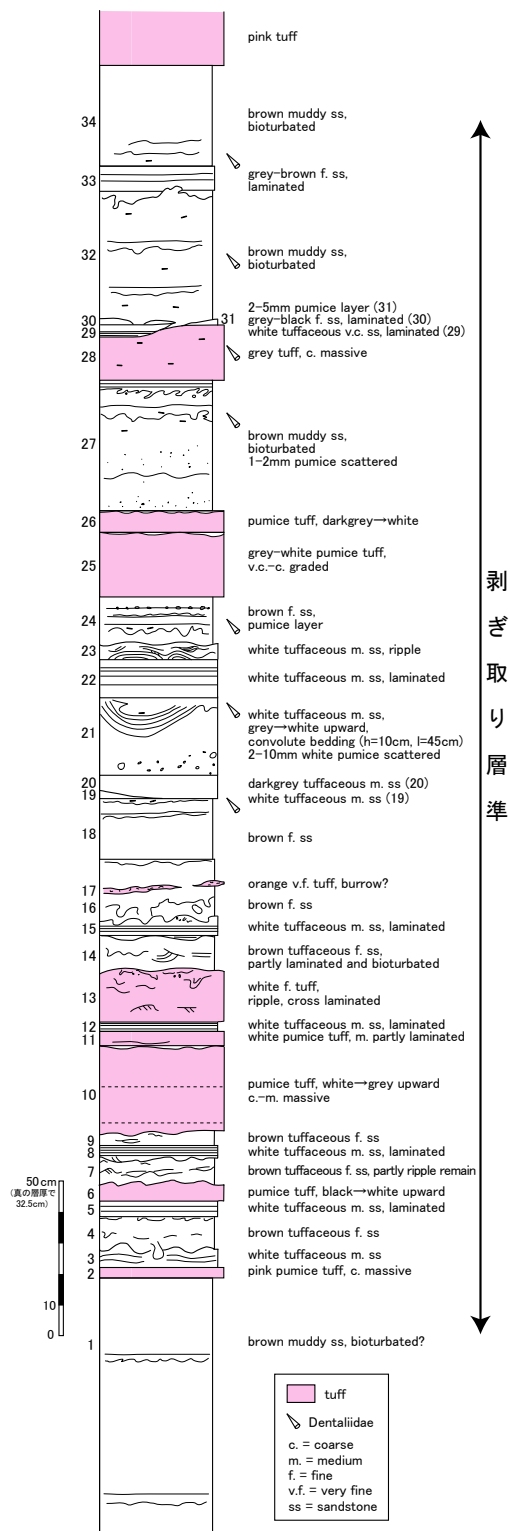


図 II-2-3. 剥ぎ取り標本の柱状図(石浜・田口, 2008)。

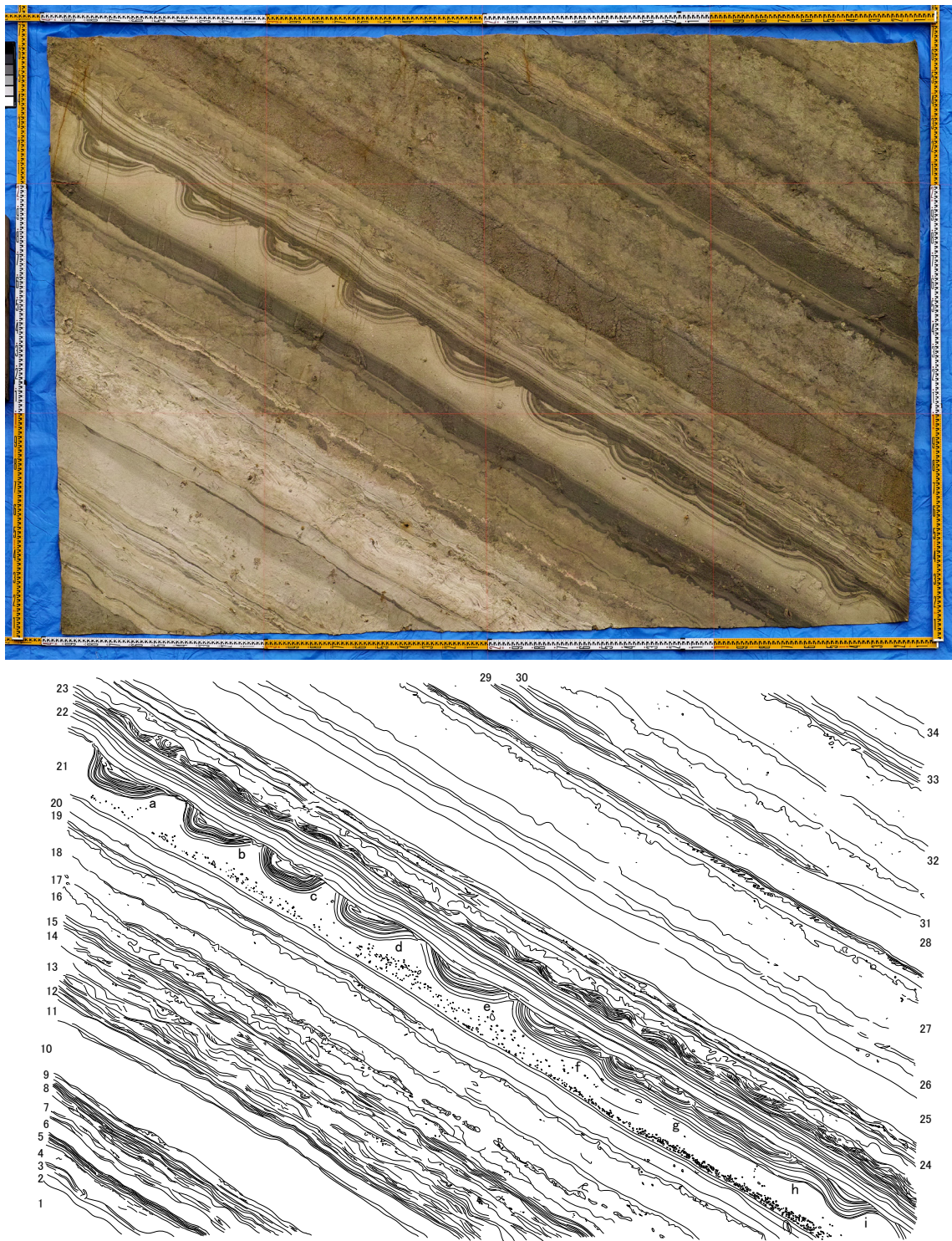


図 II-2-4. 剥ぎ取り標本の写真（上）とスケッチ（下，石浜・田口，2008）.



図 II-2-5. 剥ぎ取り標本の展示の例（左：2008 年度活動報告展，右：2011 年 2 月 11 日当館エントランスホール）.